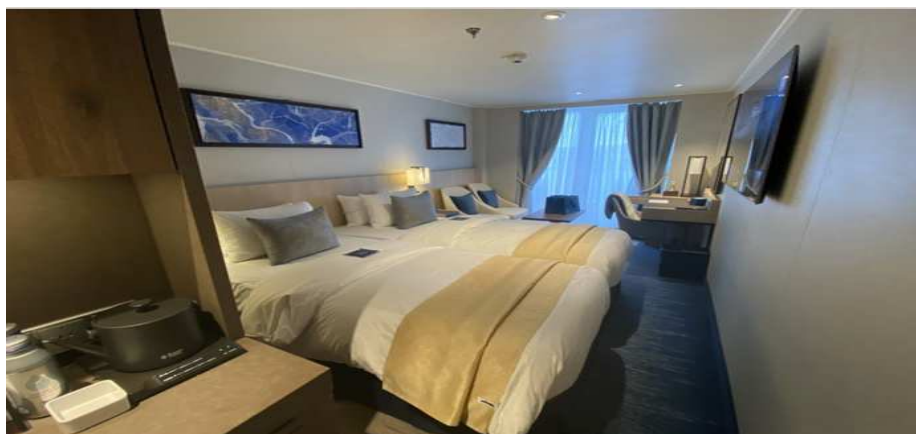


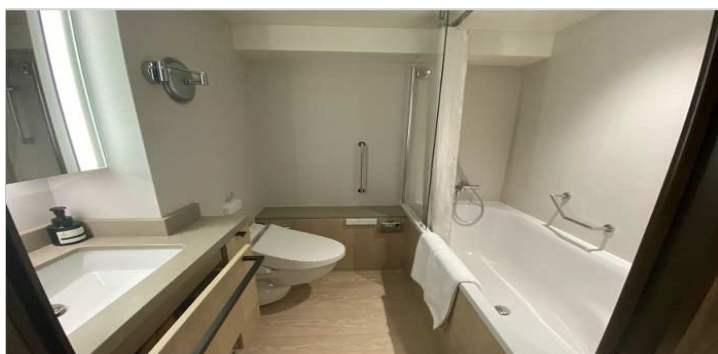
## 飛鳥Ⅲ乗船レポート(2) キャビン編

個人会員 岡島 純

キャビンはペントハウス、スイートとバルコニーの3つのカテゴリーがあり、全室プライベートバルコニー付き。申込み時に希望キャビン番号を受付て貰えることが良かった点であった。本クルーズでは中央部のバルコニーを希望したが、後日船首・船尾にあるアスカバルコニーDのキャビンに希望が多いと聞いた。ブリッジすぐ下にあり、入出港時に眺めは良い場所である。また、船尾のキャビンは航跡を見るのが好きな方には最高の場所と思う。キャビンに入るとシンクがあり、洗面所に行かずに手を洗ったり、コップを洗うことができる。シンクの下に冷蔵庫があり、水、ジュース、お茶、紙パックの紅白ワインが入れられておりワイン以外は毎日補充して貰える。もちろん湯沸かしポット、コーヒーカップ、湯飲み茶わんとグラスは棚に収納されている。バスタブは半身浴ができる形状になっており、ゆったり入浴ができ、シャワーは固定式でなく使い易い。アメニティのシャンプー、リンス、ボディソープは補充できるボトル式で環境に配慮されている。歯ブラシ、ブラシやスリッパなどは設置されているが、飛鳥のロゴは入っていない。紙を削減するため、船内新聞、船内案内書、便箋、メモ帳、ボールペンや乗船記念になる絵葉書はない。絵葉書はショップでも販売されていなかった。全てタブレット端末からイベントスケジュールを調べで参加するようになっており、画面の大きさの関係で一覧性がなく、一日のイベント参加予定を組みにくくなった。レストラン予約ができると言われていたが、いつも満席状態であった。ターンダウンは一日1回で清掃が必要な場合はドアサインを行うようになっていた。パンフレットに記載されていたランドリーバック用の風呂敷はなく不織布のバッグに代わっていた。



アスカバルコニー



バスルーム



冷蔵庫